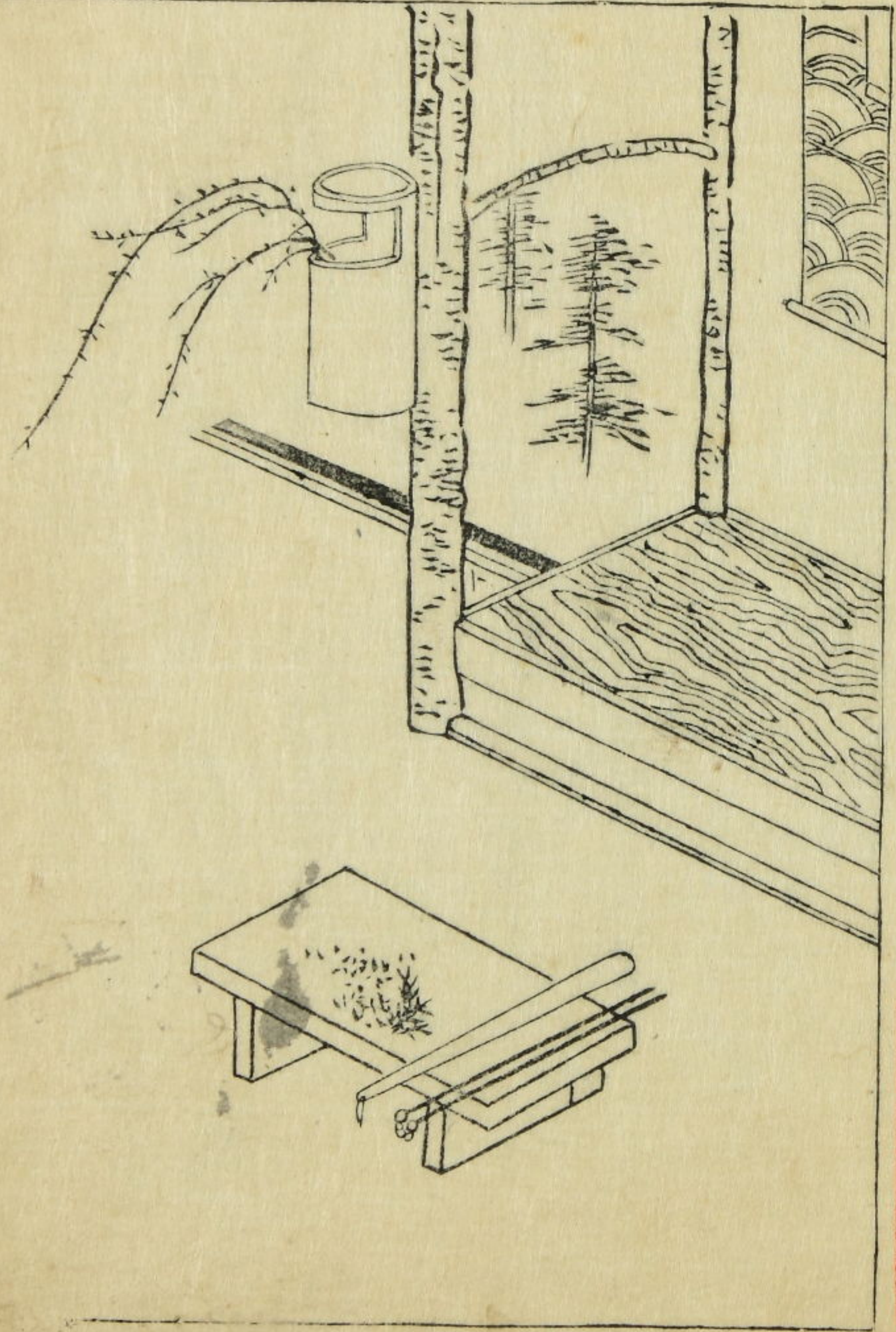


字如善の録

中村俊定文庫
文庫 18
947





春興

先づは此春の交りぬ先も七くは
は雨香いかにいれもろひて

水篋菴

鶏山

又臺の座に組板や芥多うづな
最更の水小多わをおほろ月
梢ふ新もさるぬ春て子か
松竹の瘦く申を新志も
木後くは女を泣かぬ潮あふ

う歌

春夜ぬま痛て鴨争の啼く

春興

旋頭哥片歌

桃さちと志多用波用は妹の如き

え乃

全

山やう乃倍程と啼く崖は梅の

屋乃子

全

りの丈夫に山をうー中へ号啼て

お田名

堅さうに糸くさくさ甲塚うぬ

文濤

うさうに水のめも若天よりれ

崎給

喚起鳥の春ううー乃地可ぬ

雨牛

まよもや鼻紐もあきて歎かた

乙郎

市はあも春ももてすうはし

思可

喜典

氷まてまをうてをまの研、うま
そや州の戸をそれをの 烟
湧少水の声に艶の 楸の糸
若叶や田を位乃はくあう
ま風やちね柳まやうと
うららうと雪まをさうり 秋
ち。花と負てうちふれ極うれ
山陰も雪を借れうまの茶

岷山
周布
朝湖
亀水
研山
青梧
鳳吹
茶留

去橋あをとりつるく 胡蝶小
ち母の多ひ乃中や福考州
隙まをと道ても道よ 葉、うま
水今川あつあつかろ何哉
船形よちとさうちやワレね
とふまをう角乃つてく田端、ふ
ま約や酒、歌、川、船、引
ちやあうとん、吹、柳、ふ
ふ茶もや羽、一、ま、乃、茶、ふ

龍雨
芥水
扇和
梅畠
千枝
文露
和橋
竜山
魯山

少人

門松の行を解して研ふ
 湖外
 春の針よ色ある風の如く
 琴口
 宿川の舟棹もきく
 積羽
 風は吹く西の空を渡る柳の
 春山
 空を山の上よりよみてか
 巴瓢
 山くも暗くするが夕暮の
 貞女
 しるや柳んよ土を
 畔古
 況家傳來とてあつて
 古稀のまじりたる秋の
 等已用物能其多知波示能加佐理蒙比尤通
 先歩茶

春興

古意家連中

新田の方くささの河津哉
 麥太
 紫葳 魚の水うの同
 阪桑
 横よりのま刺杖やゆき
 瑞芝
 水梅のまにまをさじ地
 戸突
 月をゆきまをさじ地
 仙風
 しるや柳一ありおてやれ
 烏白
 全
 きの雀へ植るりおてやれ
 扇郎
 田野口

全

書中以柳のりそよ草の葉小

塩名田

李束

世傳よらもてくまの柳を

詩素

あまのうら雲をたぐあふてくか

水叩

空の川に新くはくしむる水

嵐友

イサシロあひくうる田のり

梧山

山より乃言信ある君解ふ

山花

しるやまのゆふ人そと

文傳

ふもよのには人て病の憂ふ

柯則

全

魚も今死ぬじき路や上り梁

子良町

魯水

五

全

庭のまゝのゆへに山をまか

小田井

山郎

聲をたてらるるやや鹿をま

桂之

まのゆへにまゝに水やまのり

柳泉

似て申れし名のとほくぬ陸之れ

花明

名も申はるまゝとゆへに接枝か

柳子

全

借て咲くものにさういふ夏のくれ
飛ぶん陸とさういふ夏のくれ
ゆゑ人の世のさういふ夏のくれ
制れよ身はしりぬさういふ夏のくれ
噫よそ中へそくや浅き
なへよそくは松の葉を揺るか

梅井

和研

優志

露桂

芳枝

眠棘

吟呂

全

清秋のよみれふし梅の玉
花もよみれふし梅の玉

根際

波文

蘆鳥

しつぎてやうしんか
ゆるらふ柳の風や割け
まよひしつぎてやうしんか

青雨

漱石

車雀

全 春風春水一時来

平賀

柳牛

菊明

曇石

松宇

芦文

追てまよひしつぎてやうしんか
松風のまよひしつぎてやうしんか
ゆるらふ柳の風や割け
陽あけのまよひしつぎてやうしんか
まよひしつぎてやうしんか

山田

全

都くも凡河のそとて 梅のそと
けけのや中を修して 水のそ

去目

扇雨

九河

全

枝よりもを甘き一うめの毒
久し戸を忘るも一梅のど
月と梅のつえきふにううか
本枯のそよりうもるそとてくれ

入片倉

玉嶺

草浦

梅知

時給

全

けけ凡か拂うくゆ。 鴨

上毛中塞田

一峰

ま久し修りし節やううあう

和田坂

魚明

全

花よ修く心とてあ一森のそと
系ありと梅志をくけう修り聲
えんやんを修るそのそか乃良
多河まに山南部一福寿軒
あぬいんを修りけるうめのど
まの目れもあううう本所の花

連今沢

帯路

花明

可柝

銀樹

一蝶

かゆ吉

痛く宵を水の音に身をまよのち
名乃月を深連しりう葦葎圃

女
柳之

笑白

全

とらきうとどきふらう 腫 月

馬添

秋巴

名井波むじあくもまう葎の色

千斯

かきふに言れあやう 柳うか

莚花

山吹やちれとあつまる 水うき

里曉

全

初平やる居の落るよ 梅の色

平原

松丈

ハ

陽を乃ゆ山あつりて 痛うか

八幡村

梧夕

そくとこれ門くもれ 梅うれ

思我

梅穂乃るよまきうり 腫つき

上毛塚

芳尺

一村の屋まぬらうり 桃乃花

梅雨

全

そややあけり控へあうあう

江戸下谷

魯駒

介のあへてあつるんまら 山茶とふか

八丁

鏡毒

園ぬらうとあつるものや 枕のこれ

神田

和通

七台や雪の落るうり 七不思義

長土呂

去留

全

下羅や 齋川とて雲同とる

野井以

鷺平

山とてあう低くあうあうね

後鳥

愛や 体むよ口れつせー一に

蘆立

陽冬のはとて残して高解とる

九率

植とてあうあうあうあうね

坐来

系中とて舟のあまを以て干か

何鳥

門とてあうあうあうあうね

可し

後とてあうあうあうあうね

扇志

ゆきとてあうあうあうあうね

友之

中とてあうあうあうあうね

和成

喚起とてあうあうあうあうね

花溪

全

舟とてあうあうあうあうね

佐敷

馬朋

校とてあうあうあうあうね

和勇

金屏の繪具はさうとて柳とて

百二

水とてあうあうあうあうね

花夕

風とてあうあうあうあうね

芦江

くらんぞんぞん毎まね日陽うか

小諸屋町
貞光

そらや 雲うかろく 糸任左

虎文

蒼たりの海より青きやいのりり

杉史

おのろよよを雲あはれ 離るれ

朝宇

水くまえく 終くや 暮く自

芸和

おれのあつみのよこあはれ 陸うか

仙步

中々うきうきやういふは 芦のはの

樺壽

吹凡よ 浦進くくや 柳うか

少人
冠山

刺さけて 摘くもむね木の花止

菓嗽

すく 徒の氣まいり けふつこ

盲人
竹洞

あ凡よ 心のうきく 橋板うか

芦帆

おろくくく 声のもえく 鏡映水

茂松

若入の おもひてんこ ともれお

少人
己の女

まゐの おもひて 甲増うか

帆船

柳よとゆえん ありけ 上りやか

榎斜

とりくくの 草入り 封切の 雪解うか

まゐり

初年や 大教てつめく 村隣

安之

ち〜わ〜ん〜の〜ち〜ち〜土〜ち〜ち〜
 〜〜凡の〜ち〜こ〜〜ち〜木の〜葉〜か
 身と〜ち〜ち〜雨〜水〜の〜降〜れ
 ち〜ち〜も〜じ〜〜凡信し〜波〜部
 兎明 危中 和水 麥仲

全

葉の〜化〜よ〜わ〜ち〜ち〜ある〜葉〜ち〜う〜角
 ち〜ち〜ち〜ち〜と〜け〜ち〜ち〜ち〜事〜や〜水〜流〜れ
 あ〜〜し〜じ〜た〜年〜の〜通〜辞〜や〜初〜〜れ
 招〜く〜と〜川〜と〜ち〜ち〜と〜多〜く〜柳〜〜ち〜
 古千 耳風 麥由 秋郎

日本町

十一

全

鼻〜ち〜ち〜は〜ち〜人〜の〜園〜や〜鳴〜く〜〜り
 ち〜柳〜〜は〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜乃〜雨
 ち〜ち〜や〜ち〜ち〜乃〜ち〜ち〜ち〜ち〜 庭〜ち〜ち〜ち〜
 ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜
 ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜
 ち〜ち〜ち〜ち〜凡〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜
 ち〜ち〜面〜や〜ち〜ち〜推〜ち〜ち〜ち〜ち〜ち〜
 日中町 里雀 雨石 龜仙 柳和 里雀
 日本町 秋郎 耳風 麥由 古千

日

里雀

摘花の味とけりし 水の匂

湯赤

春波

全

去る魚や舟の跡へ清くても

高野町

鳥乙

ゆきゆく春のまをり 梅のうれ

南十

舟と今も山よ入るや夕に子も

如林

水へまゝくじと流るくもさか

芦江

かてけりし水も流るく柳のふ

九節

松小屋のけりし枝やまの雨

宿岩

里川

ふんほく南に吹く片柳の

州志

いさよゆとさうなちをさむさうな

羽光

帆くらしの起るくおろし 柳のうれ

上村

岫巴

空のたぐりやれ 空乃ち

サキ田

志存

全

泣きぬ戸はかほえあり 梅のう

松本

涼山

全

けりまのけりし梅のやうらの花

三分

梅二

夕のけりし傘と頭を 柳のう

里徑

らるふとさうりやるやのうれ

柳條

全

横へ傳へ僻や夢りて妻の面

下海帆

東鳥

夢りて夢りて傳へや言乃と云

楓夕

里乃名の夜夢よ 眺のよみ

吾水

凡書てとよとと夢の柳一川

仙羽

とくよと夢の動くよ夢よみ

皓合

言ひて夜夢よとよとと夢よ

道風

夢の夢よの風よとよとと柳よ

梅雨

全

赤岩

凡れく遠く夢の柳よ

信夕

池の夢傳へ候在とく柳よ

鶏天

夢の夢よの柳よとく柳よ

葛光

夢の夢よの柳よとく柳よ

椒水

脚の夢よの夢よとく柳よ

梅丈

夢の夢よの夢よとく柳よ

旭山

全

空尔

何れも夢も松と云のく夢

菊茂

去語れは夢とく川やほとく

竹丈

解多印しやも 暇や 晴月

一尋

海に倒て甲のふり 陸にふ

山塘

晴ふ人も 出さるさうく 元

上毛牛田 浙江

ふとぬきまゝの ぬれぬれ

尺山

ふゆと 十ふきふ 陽に 田中

年六 曉水

ふの 入中 雲の 入ら ぶら ぶら

下中 只芳

ふの 浦の 風ま ぶら ぶら 柳

下中 蟻り

全

舞と 櫻と かりり 春の 白

南相 和聲

十四

ふの 乳のおと 葉を 下 陸に ぶら

東川

木の ぶら ぶら ぶら ぶら 柳

志水

水中に ぶら ぶら 柳

玉水

徒 徒 徒 徒 徒 徒 徒 徒 徒 徒

南徑

全

草の や 草の や 草の や 草の や 草の や

牧布施 楚涼

寶川や 平と ぶら ぶら 新に 砂

香嵐

ぶら ぶら 梅も ぶら ぶら 梅の 意

古硯

ぶら ぶら 梅も ぶら ぶら 梅の 意

仙丈

全

春の雨晴くさ青く満ちたり
おとしむし影をたそねしきふ
障もよの晴もよめ夜や啼け
浮世とてやうるまひの跡を
まへりしかたぬ圃のまをり

白井嶺

峰鳥

櫻之

仏堂

哥林

紅林

全

雪解やをほく庭の竹もあり
うらみれは流るるをけり

八幡坂

連志

楚江

よ水ま川もぬるめて梅の心
まふむや影の心の色もよるま
片竹の葉もよるや凡中

柳志

梅志

曲調

全

あし魚や此一節ハ 糸の心
猶り糸柳の葉もよるけり

を月

素翁

朴之

全

人よきさふんをあり梅の花
陽をともめてあうり春の空

冬代

路因

上田

十五二

拾遺

醉月城

さね飛杖手は病也 美お

さ路や小末川枕

一えさう橋よ窗あり梅のむ 百莖

とる神の終焉の巻一 新葉摘 寸竹

山城のいれをこ 鐘の雪解か 大榊

さきの竹も起し 初言うら 蕭電

文通

伊勢

老木をこもり 白じ梅の白くぬ 麦浪

元山より仰ぐ 雲をて 鏡月 入替

先をこり 歩けて 暮らり 初櫻 浮石

山をこり あり 空を 橋を 何聲

依る 空を 夕に 如きり 標良

暮る や ころり 所ハ 終る 人 晚九

枕を 火を 暮る 橋を 既白

暮るのよれ 暮る 橋を 合ら 外 梨一

能登七尾

加賀小松

越前九尾

梅の香のよきとて東門もきりしは
かきつらぬ葉のよみえうらみあり
まきとて門をぬきて松のて
そ夏の山もハツ尾よきしは啼

吾老寺

麓

松本

寛之

友光

上毛新町

片歌一首

五の梅のよきとて東門もきりしは

洛陽

綾衣

吹よりのよきとて夏のよきとて

追加 河女歌

まきとて一葉のよきとて東門もきりしは
まきとて門をぬきて松のて
そ夏の山もハツ尾よきしは啼
まきとて門をぬきて松のて
そ夏の山もハツ尾よきしは啼
まきとて門をぬきて松のて
そ夏の山もハツ尾よきしは啼
まきとて門をぬきて松のて
そ夏の山もハツ尾よきしは啼
まきとて門をぬきて松のて
そ夏の山もハツ尾よきしは啼

上毛新町

暁雨

巴

巴

沙

白井

八幡

和風

玉芳

泉

千ヶ崎の柳

柳古

松本朝和

朝和

くさくさ天井紙

雀翁

ゆきやうれい

はなとちとてくちやわ

水篋

よひのあや

よひのあや

あつたふらふら

、

